無医村に生涯を捧げた志田周子

「銀幕に蘇らせる会」が募金を呼びかけ

無医村の医療に生涯をかけた志田周子（しだちかこ）、その姿を映画として残そうとの運動が広がっている。

明治43年（1910）に山形県西村山郡左沢町（現在の大江町）で生まれたが、父の荘次郎が故郷の大井沢小学校長となり、大井沢村（現在の西川町）に移住。山形県立第一女学校から東京女子医学専門学校を卒業した。

昭和10年、「3年だけでいいから」との父の懇請で、当時は陸の孤島と呼ばれた無医村の大井沢村に戻り、村民の命を守るとともに、女性活動の先駆者として婦人会長や村会議員を務めた。34年に保健分野の最高賞とされる保健文化賞（第11回）を東北で初めて受けた。37年（1962）に食道ガンで死去したが、51歳の若さだった。

アララギ派の歌人としても優れた作品を残す。「西山にオリオン星座かかるをみつつ患家に急ぐ雪路を踏みて」の歌碑が、大井沢小学校を望む高台に建つ。

女性であるがゆえの逆境、母せいの死のよる弟たちの母親代わり、村民の大きな期待…、独身を通し、幾多の困難を乗り越えながら地域のために生涯を捧げた人生は、時を超えて現代に生きる人の心に訴えてくるものがある。

周子の生涯を映画にして後世に伝えるとともに、月山に抱かれた美しい風景が広がる西川町、山形県の活性化につなげようと「志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会」（会長＝阿部幸一月山朝日観光協会長）が募金を呼びかけている。「地域を、町を、山形を、そして日本を元気に」と大井沢郵便局の志田浩一局長をはじめ西川町の局長も全面的に協力している。

映画は〝まちづくり型を目指す〟とし、月山をはじめとする「豊かで美しい風景」「生活や食、伝統文化」「心温まる人間性や揺るぎない絆」を表現、地域からの情報を発信する。

そして「都市と農村の人の交流、農産物の流通促進」「地域に暮らす人々がさらに強固につながること」「暮らし住み続けることの素晴らしさの再認識」などが広がることを目的としている。

募金目標は1億円。ゆうちょ銀行の振替口座は02250―9―0135611。

「志田周子の生涯を銀幕に蘇らせる会」の事務局は、山形県西川町教育委員会生涯学習課（〒990―0703・山形県西川町間沢280、西川交流センターあいべ。電話0237―74―3131、FAX0237―74―3219）。

人事・労務実務セミナー

＝4月24日

千葉商工会議所（千葉市中央区2―5―1、千葉中央ツインビル2号館。参加費無料。

〈1部・13時～15時15分〉人事労務担当セミナー

〈2部・15時30分～16時30分〉管理の実際

〈3部・16時45分～17時〉新しい労災リスク企業防衛（高度化する損害賠償額）

※申し込みは曽我社会保険労務士事務所へ。電話043―275―1757、FAX043―275―1758、Eメール info@sogaoffice.jp.

通信文化新報

平成26年（2014年）4月7日（月曜日）

通信文化新報

発行所
株式会社 通信文化新報
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町2-5-1
大晃ビル2F